

令和3年度 学校評価表【自己評価】

三次市立甲奴小学校

<p>経営理念(ミッション・ビジョン)          ・よりよく積極的に生きるための基盤として「郷土を誇りに思ふ心」を育て、地域や社会に貢献しようとする意欲や態度をもった人材を育てる。          ・変化の激しい社会の中で、グローバルな視点を持ち、国籍や互いの立場の違いを超えて、協調し協働して生きていくことができる力をつける。          ○育成したい資質・能力 ①「コミュニケーション能力」 ②「課題を発見し解決する力」 ③「乗り越える力」</p>	<p>&lt;学校教育目標&gt;          すすんで きたえ みがき のびる          ~社会の変化に対応できる心豊かでたくましい子どもの育成~          &lt;めざす学校像&gt;          ○すすんで.....子供の主体性を伸ばす学校          ○きたえ・みがき.....個々の持ち味を発揮させる学校          ○のびる.....得意なことを引出し、自信を持たせる学校</p>	<p>&lt;甲奴中学校区のめざす子供像&gt;          「ふるさと甲奴を誇りに思い、自ら未来を切り拓いていく子供」          &lt;甲奴小のめざす子供像&gt;          ☆自分が好き・・・夢(目標とする姿)を持ち自ら進んで最後までねばり強くやりぬく子供          ☆友だちが好き・・・友だちのよさを見つけ、自ら進んで一緒に働き、遊び、学ぶ子供          ☆甲奴が好き・・・身の回りに目を向け、地域や地域の方から学び、表現できる子供</p>
--	--	---

評価計画				自己評価										学校関係者評価		
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	指標 (効果を見とる目安)【担当】	目標 値	7月			12月			結果の分析	改善策	評価	コメント		
					達成値	達成度	評価	達成値	達成度	評価						
確かな学力の育成	全国水準の学力をつける(知識・技能・思考力・判断力・表現力・学びに向かう力の育成)	○基礎的・基本的知識・技能の習得と定着	・相互に授業を見合い、児童が主体的に学べるよう授業改善を行う ・外国語活動の単元づくりの手法を他教科に生かす研修による授業改善を行う	・評価テスト(国語・算数)で得点が期待平均点を超える児童の割合【空久保】	国語	75%	77.0%	103%	A	79%	105%	A	・国語科、算数科ともに目標値を達成することができた。 ・外国語活動や外国語科で行っている単元目標を意識した授業実践を他教科でも意識し、授業改善を行うことができた。 ・学習リーダーを中心とした授業を行い、児童が主体的に学習に向かうことができた。 ・学力テスト対策等でパワーアップタイムを効果的に活用することができた。	・単元目標を意識した授業や、学習リーダーを中心とした授業に取り組むことで、児童が主体的に学習に向かうことができるようにしていく。 ・引き続き学力テスト対策以外でも学級実態に応じて、効果的にパワーアップタイムを活用していく。 ・学年末に向けてこれまでの学習を振り返り、苦手な内容に重点的に取り組む等、指導を工夫し、基礎的・基本的知識・技能の習得と定着を図る。		
			・英語活動・外国語活動・外国語科および他教科において、フィナルタスクを意識した授業づくり及び授業実践を行う	・ファイナルタスクを意識して授業に取り組んだ児童の割合(児童への意識調査) ・指導者がフィナルタスクを意識し、授業を実践した度合い(指導者による評価)【石川】	75%	97.9%	131%	A	100%	133%	A	・今回は、中学年・高学年共に肯定的評価であった。1・2学期で、外国語活動・外国語科の授業研究を行い、フィナルタスクの在り方を改善した結果であると考えられる。アメリカス市の人で紹介カードを行う、ニュージーランドの友達と会話をするという児童にとって魅力的であり学習したことが実践できるフィナルタスクを設定することで児童が意欲的に取り組めたと思う。	・さらに児童が主体的に学習をすることができるようにするために、児童にとって魅力的なフィナルタスクを設定していきたい。また、児童と共にフィナルタスクを設定していきたい。自身でフィナルタスクを設定することで、既習学習とつなげて考えることができ、単元計画を考えやすくなると考える。			
			・外国語活動・各教科において、児童の学習状況を適切に評価し授業改善、教育課程改善につなげる	・「課題発見・解決学習」単元における単元末の振り返り(単元末の学習の振り返りに関して、粘り強さや積極性、学び方を工夫しようとする態度)の肯定的評価の割合 ・指導者による学習に取り組む態度の見取りの肯定的評価の割合【梅田】	75%	90%	120%	A	90%	120%	A	7月に引き続き12月も結果として概ね達成できている。細かく見ると児童の結果は全て上がり、低学年と中学年の指導者の結果も上がった。高学年指導者の評価がやや下がったが、全体としては0.86%下がったのみでほぼ同じ結果となった。	「課題発見・解決学習」単元をはじめとする授業において、粘り強く学習しようとする態度が身につくよう、発達段階を考慮した授業改善に取り組むとともに、個に応じた意見を交流する場を設ける等の指導に取り組む、児童の主体性が養われるよう指導を工夫していく。また、家庭学習・自主学習に主体的に取り組めるよう指導を行い、自ら学びに向かう力を育成する。			
豊かな心の育成	規範意識を高め、思いやりの心を育成する	○規律ある学校生活 あいさつ 無言掃除 無言集合	・一斉下校、朝会時等における全体指導 ・挨拶は、「いつでも・どこでも・だれにいても」を徹底する ・学期1回あいさつ週間を実施 ・月ごとにテーマを決めて児童会掲示板板を利用し、友だち同志相互評価する	・「あいさつ・無言掃除・無言集合」に関する生活アンケート及びあいさつ週間の振り返りでの肯定的に自己評価する児童の割合(児童自己評価) ・教職員の見取りによる評価【長手】	80%	97%	121%	A	100%	125%	A	指導者と児童の評価に若干の差はあるが、どの様な挨拶をすれば良いのかを示し、児童と共通認識を図る事で目標を概ね達成する事はできた。今後最も課題と捉えている挨拶を「自分から」「誰にでも」する事を指導していく。掃除は、集合時間も早く、無言でできるようにした。無言集合は、全体が集まる時にその都度指導したので概ねできている。	挨拶は、「あいさつのじ・だ・い」を合言葉に今後も指導を継続する。「自分から」の課題解決のために、児童会と連携した「あいさつ週間」など短期集中的に取り組む。また、指導者間でもどの様な挨拶が望ましいか協議し、具体的な姿を子どもに示す。無言掃除については、今後は時間いっぱい守る事、特に終了時刻を守る。必要な学年にはトイレ掃除の仕方などを指導し、丁寧かつ時間いっぱい掃除をさせる。無言集合は、引き続き肯定的評価を行う。			
			・ふわふわ言葉の常態化をめざす生活指導	・「思いやりの心」に関するアンケートで肯定的に評価する児童の割合【小田】	80%	97%	122%	A	98%	123%	A	・前期と同様、児童の肯定的評価が高く、相手に対して思いやりのある行動を意識しながら、生活を送っている。課題であった児童と指導者の評価の差が近くなり、自他ともに思いやりの心の育成を図ることが出来ている。また、「ここにこボックス」や「あいさつボックス」も継続した児童会役員の声掛けや取組があり、相手意識をもち、他者を思いやるようになってきている。	・「ここにこボックス」を活用し、低・中・高と分けて異学年のいいところ見つけを行うことができているため、さらなる活用を心掛ける。他学年同士でお互いを認め合う場を設ける。また、児童会による放送で、思いやりのある行動の良さを伝え、啓発する。また、児童と指導者の目指す「思いやりのある行動」を各学級、全校で共有する。 ・異学年交流の場を設けるために、新型コロナウイルス感染症予防を取りながら、できる範囲で交流をもつ。			
			・道徳の時間の充実 ・縦割り班遊びを通して異学年との関わりを深める	・「思いやりの心」育成に関する教職員の見取り調査【小田】	80%	71%	89%	B	81%	102%	A					
健やかな体の育成	自ら目標をもち、進んで体力の向上、健康の保持増進に取り組む意欲・態度を育てる	○体力の向上	・外遊びの推奨(毎週水曜日は、外遊び奨励) ・毎週月・水・金曜日にランランタイム(業間運動)を設定し、月の最終金曜日に縦割り班遊びを実施 ・水泳記録会、マラソン大会、縄跳び検定の自己目標の設定	・新体力テストの分析に基づく取組の結果、平均値を上回る児童の割合【長手】	70%	52.3%	75.0%	C	80.3%	115%	A	年度当初計画した縦割り班遊び・ランランタイムが十分実施できていなかったが、マラソン大会に向けて短期的な取組みやこれまでのサーキットトレーニングの結果が出てきている。また、新体力テストに向けての取組は、事前指導を十分に行うと、かなり効果的であるという学年も出てきた。マラソン大会の目標は、おおむね達成できている。今後も適切な目標を設定できるような指導を行っていく。外遊びの奨励の方も各担当が指導しているが、個人差がある。	今後も天候や新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえつつ、週1回水曜日に全校で外遊びを行い、室内に閉じこもりがちな児童が固定化しない様に取り組む。また、次年度はランランタイムに取り組むとともに、新体力テストで課題のみならず種目については、事前指導やサーキットトレーニングを継続的に行っていく。また、課題克服のための短く簡単な運動を児童教職員に示し、取り入れてもらう。実施した新体力テストの結果は、データを残し来年度の自己目標の参考にさせる。			
			・朝食、生活リズムについて全体指導をする	・朝食・生活習慣に関するアンケートで、肯定的に評価する児童の割合【柚木・岸】	80%	朝食・生活94%	朝食・生活117%	A	朝食・生活81%	朝食・生活101%	A	・朝食については学校がある日は児童全員食べてきていた。しかし、何か口に入れた程度の児童も数名おり固定化も目立つ。朝会や学級指導を通じて、朝食の必要性と質の向上を啓発する取り組みを行う必要がある。 ・生活については、ストップ9が守れなかった児童はメディア視聴時間も守れなかった児童が多い。メディアの視聴時間が過ぎたり、ストップ9が守れなかつたりすると起床時刻、就寝時刻が乱れ、生活習慣の崩れがちな日がある児童がいた。 ・ノーマディアについては、保護者アンケートから、自ら進んで取り組んでいる児童の割合が増えてきている。しかし、兄弟が保育所や中学校、高校等にいたり取り組むことが難しい児童がいる。また、学年が上がるごとに出来にくい傾向が顕著であるが、メディアが身体に与える影響等を適宜指導し、改善を図っていく必要がある。	・朝食の質の向上を啓発するために、校内掲示や食育朝会、食育たよりで朝食の重要性について児童及び保護者に情報を提供をし、啓発活動を行っていく。バランスのとれた朝食レシピ等を定期的に発行する。 ・生活習慣については、メディアが及ぼす影響や生活のリズムの乱れを整える内容等のほけんだよりを発行する。さらに、生活リズムチェック週間だけでなく、毎日の健康観察の項目を追加し、就寝時間・朝食などを聞き取る取り組みを行う。今後も必要に応じて、学級指導や朝会などで、生活リズムについての指導を行う。また、個別指導が必要な児童については、担任や養護教諭が連携を図り、保護者連絡して生活習慣を整える指導も行う。 ・ノーマディアの取り組みについては、引き続き保護者の協力のもと続けていくとともに、メディアが与える影響についての保健指導を行っていく。			
			・アンケートによる基本的な生活習慣の実態把握 ・ノーマディアデーの実施	・朝食・生活習慣に関するアンケートで、肯定的に評価する児童の割合【岸・長手】	80%	朝食・生活94%	朝食・生活116%	A	朝食・生活92%	朝食・生活115%	A					
信頼される学校	安全・安心で信頼される学校をめざす	○危機管理の徹底と指導力の向上	・感染症対策を含めた危機管理体制の充実 ・働き方改革による「子どもと向き合う時間」の確保 ・研修等による指導力の向上	・危機管理対策研修を学期に1回以上行う ・危機管理体制について、保護者アンケートでの、肯定的評価【宮本】	85%	91%	107%	A	93%	109%	A	・危機管理対策研修は、予定通り毎月行うことができた。感染症対策は、感染状況に応じて、マスク・手洗い・教室の工夫等、組織的に対策を講じることができた。また、効果的にICTを活用し、学習を保障することができた。 ・保護者アンケート評価は92.7%であり、整理整頓は100%と肯定的評価をいただいた。	・今後も、国・県・市の指針に基づき、感染症対策を講じ、工夫改善しながら教育活動を進めていく。 ・コロナ禍でも、学校公開(参観日・学級懇談会等)を行い、安全安心な環境整備を行っているため、保護者には肯定的な理解をいただいている。危機管理の環境(門扉・通学路等)については、今後も引き続き要求していく。			
			・指導力の向上について、児童・保護者アンケートでの、肯定的評価【宮本】	85%	96%	113%	A	96%	113%	A	保護者アンケートでの「教職員は工夫して指導している」は100%、「問題行動の指導」92%であり、「授業が分かりやすいと言っている」も95%と高評価であった。コロナ禍においてもできる行事を工夫しながら行い、予定してきた研修や指導をこつこつと行ってきたことに評価をいただいた。	「授業が分かりやすいと言っている」の項目は、昨年度より上がっている。否定的意見については、少数であっても児童に分かる喜びを実感できるように、主体的な学習を目指し授業改善を行っていく。今後も「子どもと向き合う時間」を充実させ、組織的かつ細やかに指導力の向上に努める。				

(自己評価) 達成度=達成値÷目標値 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60